

## 令和6年度分 事業所における自己評価総括表（放課後等デイサービス）

事業所名	子ども発達総合支援センター		
保護者評価 実施期間	令和 6年 12月 16日		～ 令和 7年 2月 28日
保護者評価 有効回答数	対象者数	75人	回答者数 31人
職員評価 実施期間	令和 7年 2月 17日		～ 令和 7年 2月 21日
職員評価 有効回答数	対象者数	18人	回答者数 18人
事業所向け自己評価表 作成日	令和 7年 3月 7日		

### ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多職種で支援・連携ができる	・障がい等の複数要因により支援が必要な場合がある。 ・特性や発達段階に応じて専門性の高い支援を提供している。	引き続き、専門職員間で連携し、多様な支援方法を検討していく。
2	支援内容が充実している	・通所支援だけでなく、保育所等訪問支援、家族支援、地域デイサービス等、多種多様な支援を行っている。	・研修等により各自のスキルアップを図り、職員の専門性を高めていく。
3	継続した支援ができる	・児童発達支援、保育所等訪問支援があり、就学前から継続してこどもとかかわることができる。	・こどもの発達段階や特性に合った支援を行っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブ等や地域住民との交流がない。	・センターを利用しているこどもは市内全域から通所し、日常では地域の学校等に通学しているため、地域や他のこどもたちとは、就学先で交流していると捉えている。	・保護者のニーズ調査を行い、センターの支援体制も踏まえながら検討していく。
2	保護者同士の交流機会が少なく、きょうだい同士の交流機会はない。	・個別訓練のため、保護者同士の交流機会がほぼない。 ・児童発達支援センターとして、通所支援のほか、保育所等訪問支援、家族支援、地域デイサービス等、多種多様な支援に取り組んでおり、投入できる職員数に限りがある。	・保護者交流会を試験的に実施するとともに、保護者のニーズ調査を行い、センターの支援体制も踏まえながら検討していく。
3	利用機会が少ない	・1対1の個別療育であり、時間的に予約枠に限りがある。	・必要とされる専門性を活かし、小集団療育の実施を検討していく。